

自然災害発生時における業務継続計画

法人名	株式会社 べすとびじょん	種別	児童発達支援 放課後等デイサービス
代表者	横田 幹雄	管理者	砥嶋 徳美
所在地	大阪府大東市 三住町 1-29	電話番号	072-813-7411

目次

1. 総論	1
(1) 基本方針.....	1
(2) 推進体制.....	2
(3) リスクの把握.....	2
① ハザードマップなどの確認.....	2
② 被災想定.....	3
(4) 優先業務の選定.....	4
① 優先する事業.....	4
② 優先する業務.....	4
(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し.....	4
① 研修・訓練の実施.....	4
② BCPの検証・見直し.....	4
2. 平常時の対応	5
(1) 建物・設備の安全対策.....	5
① 人が常駐する場所の耐震措置.....	5
② 設備の耐震措置.....	5
③ 水害対策.....	5
(2) 電気が止まった場合の対策.....	5
(3) ガスが止まった場合の対策.....	5
(4) 水道が止まった場合の対策.....	6
① 飲料水.....	6
② 生活用水.....	6
(5) 通信が麻痺した場合の対策.....	6
(6) システムが停止した場合の対策.....	6
(7) 衛生面（トイレ等）の対策.....	6
① トイレ対策.....	6
② 汚物対策.....	6
(8) 必要品の備蓄.....	7
(9) 資金手当て.....	8
3. 緊急時の対応	8
(1) BCP発動基準.....	8
(2) 行動基準.....	8
(3) 対応体制.....	9
(4) 対応拠点.....	9
(5) 安否確認.....	9

① 利用者の安否確認.....	9
② 職員の安否確認.....	9
(6) 職員の参集基準.....	10
(7) 施設内外での避難場所・避難方法.....	10
(8) 重要業務の継続.....	11
(9) 職員の管理(ケア).....	11
① 休憩・宿泊場所.....	11
② 勤務シフト.....	11
(10) 復旧対応.....	11
① 破損個所の確認.....	11
② 業者連絡先一覧の整備.....	11
③ 情報発信(関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応).....	11
4. 他施設との連携.....	12
(1) 連携体制の構築.....	12
① 連携先との協議.....	12
② 連携協定書の締結.....	12
③ 地域のネットワーク等の構築・参画.....	12
(2) 連携対応.....	13
① 事前準備.....	13
② 利用者情報の整理.....	13
③ 共同訓練.....	13
5. 地域との連携.....	13
(1) 被災時の職員の派遣.....	13
(2) 福祉避難所の運営.....	13
① 福祉避難所の指定.....	13
② 福祉避難所開設の事前準備.....	13
6. 通所系・固有事項.....	14
<更新履歴>.....	15
(参考) 記入フォーム例.....	16
【様式②】施設・設備の点検リスト.....	17
【様式④】利用者の安否確認シート.....	18
【様式④】利用者の安否確認シート.....	19
【様式⑤】職員の安否確認シート.....	20
【様式⑥】建物・設備の被害点検シート.....	21

1. 総論

(1) 基本方針

当法人において事業継続計画（BCP）を策定・運用する目的とともに、当法人の特性を踏まえ、緊急時に事業継続を図る上での基本方針は以下のとおりである。

(1) BCP 策定・運用の目的

① 利用者にとって

当法人は、障害福祉事業を運営し、児童発達支援・放課後等デイサービス等の福祉サービスを提供している。地震や豪雨などの災害発生によるサービス停止が長引けば、利用者の機能低下や利用者家族の負担増大が予想されるため、災害時であっても可能な限り早急に安全管理・確認を行い、最低限のサービスについては継続していく必要がある。

② 職員にとって

災害発生時にも事業を継続することにより当法人の経営を健全に保つことは、職員の雇用を守る上で重要である。また災害時の職員の安全の確保に関しても本 BCP の中で併せて検討することにより職員の安全・安心や法人への帰属意識向上に繋がる。

③ 地域にとって

障害児通所施設事業者の社会福祉施設としての公共性を鑑みると、施設が無事であることを前提に、施設がもつ機能を活かして被災時に地域へ貢献することも重要な役割である。

(2) 本 BCP の適用範囲

本 BCP は、ビジョントレーニング療育「べすとびじょん」の周辺環境を想定した内容である。

(3) 事業継続の基本方針

①優先して行う業務

・利用者、職員の生命や生活を保護、維持するための業務を最優先業務とし、その他の業務は縮小または休止とする。

・特別警報が発令された場合には、障害児通所支援事業は原則中止し、業務資源の復旧状況に応じて、順次、早期に再開を目指す。

・法人内の施設間で連携して災害時優先業務に必要な人員、事業所、資機材等の確保、配分にあたります。

②地域への協力

・当法人本社や各施設の近隣住民や事業所が被災し困難な状況に遭遇している際には、可能な範囲で援助、支援活動を実施する。

(2) 推進体制

(1) 平常時における BCP 運用推進体制			
年数回開催する危機管理・防災対策委員会において推進する			
主な役割	部署・役職	氏名	補足
責任者	代表取締役社長	横田幹雄	
情報調達担当	代表理事	久保田実希	
BCP 推進責任者	施設管理者児童発 達管理責任者兼務	砥嶋徳美	
施設管理者			
全体指揮			
備蓄・調達班	社員	松村一輝	平田彩加の応援あり
連絡準備班	社員	田中真由	
救護・医療準備班	社員	西田敦人	
安全指導班	社員	田中まなみ	

(2) 緊急時における対策本部体制 (代行者を含む)			
主な役割	部署・役職	氏名	補足
責任者	代表取締役社長	横田幹雄	
情報調達担当	代表理事	久保田実希	
BCP 推進責任者	施設管理者児童 発達管理責任者 兼務	砥嶋徳美	
施設管理者			
全体指揮			
備蓄・調達班	社員	松村一輝	平田彩加の応援あり
連絡準備班	社員	田中真由	
救護・医療準備班	社員	西田敦人	
安全指導班	社員	田中まなみ	

(3) リスクの把握

① ハザードマップなどの確認

別紙として巻末に添付。

② 被災想定

【自治体公表の被災想定】

＜南海トラフ＞震度6弱以上の強い揺れの場合

交通被害

道路：細街路を中心に通行不通箇所多発

鉄道：全列車停止（早期復旧は困難）

ライフライン

上水：（断水率）100% （完全復旧まで目安：約2カ月）

下水：（断水率）2.4% （完全復旧まで目安：約1カ月）

電気：（停電率）49% （完全復旧まで目安：約1週間）

通信（固定）：100% （完全復旧まで目安：約1カ月）

通信（携帯電話）：94.7% （完全復旧まで目安：約1週間）

【自施設で想定される影響】

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
電力	使用不可（復旧待ち）	復旧							
飲料水	備蓄・配給使用								
生活用水	備蓄使用（トイレはビニール袋を利用して急場をしのぐ）						復旧		
携帯電話	使用不可（復旧待ち）		復旧						
メール	使用不可（復旧待ち）		復旧						

(4) 優先業務の選定

①優先する事業

当法人において災害発生時に優先して行う事業は、各自治体から災害時も地域で役割を課されている事業のみとし、その他の事業は原則休止し、安全の確認、必要物資の確保ができてから、段階的に再開する。休止事業については、被害の状況に応じて目標復旧時間は定め、状況を見ながら災害対策本部責任者が再開の判断を行う。

②優先する業務

優先業務	必要な職員数（常勤換算：児発管含む）	
	午前中	午後
直接支援	4人	4人

(5) 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

① 研修・訓練の実施

内容	主な目的	対象	実施回数
避難訓練	・ 初動マニュアルの妥当性の検証 ・ 職員への意識付け	全職員	年1回
参集訓練	・ 参集ルートを検証 ・ 職員への意識付け	全職員	年1回
安否確認訓練	・ 職員への意識付け	全職員	年1回
座学研修 または机上型訓練	・ 災害に関する基礎知識を養う ・ BCPの検証と、改善点の洗い出し ・ 災害対策本部メンバーの対応力の向上	対策本部メンバーなど（原則全職員）	年1回

②BCPの検証・見直し

BCPの検証・見直し頻度：毎年1回

※ただし、事業継続に関わる経営環境や被害想定に変化があった場合は適宜更新する。

見直しは BCP 運用推進体制の役割に従って検証を行い BCP 運用推進責任者が内容について判断を下すものとする。

2. 平常時の対応

(1) 建物・設備の安全対策

① 人が常駐する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
ベすとびじょん療育 大東市三住町1-29	年1回は管理会社による総合点検	新耐震基準適合

② 設備の耐震措置

対象	対応策	備考
キャビネット	転倒防止キットを使用し固定	
本棚	転倒防止キットを使用し固定	
窓ガラス	飛散防止フィルム	
消火器など	年1回は管理会社による点検	

※設備等に関しては、定期的な日常点検を実施する。

③ 水害対策

対象	対応策	備考
浸水による危険性の確認	消防訓練の際に、点検 する	
暴風による危険性の確認		
窓ガラスに飛散防止フィルムを 添付しているか		
周囲に倒れそうな樹木や飛散し そうなものは無いか		

(2) 電気が止まった場合の対策

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
情報機器：パソコン、テレビ、インターネットなど	乾電池の備蓄 携帯用充電器の備蓄
冷蔵庫・冷凍庫、夏場は暑さ対策として保冷剤などを用意	
照明機器、冷暖房機器	

(3) ガスが止まった場合の対策

稼働させるべき設備	代替策
なし	ガス設備は保持していない

(4) 水道が止まった場合の対策

① 飲料水

社員＋利用児(8人)×20×3日分の飲料水(1人60)を確保しておき、保存期間に留意して管理する。

・20ペットボトル54本(3日分×18人分)

② 生活用水

期限切れになった飲料水1ケース(6本)を生活用水として備蓄しておく

(5) 通信が麻痺した場合の対策

被災時に施設内で実際に使用できる方法(携帯メール)などについて、使用可能台数、バッテリー容量や使用方法等を記載する。

→ 携帯電話/携帯メール/PCメール/SNS等

運営上大きな問題にならないため、復旧作業を待つ

(6) システムが停止した場合の対策

導入システム HUG は全職員の携帯から操作が可能のため、携帯用ポータブル電源を購入する予定。

パソコン内のデータは常に Google・Dropbox・ハードディスクを通して使用しているため、社外からのパソコンからでも利用できるシステムになっている。

(7) 衛生面(トイレ等)の対策

① トイレ対策

【利用者】

簡易トイレに黒ビニール袋と大人用尿取りパッドを設置し、4回程度使用したら袋を閉じて避難所が指定する場所に処理する。

【職員】

簡易トイレに黒ビニール袋と大人用尿取りパッドを設置し、2回程度使用したら袋を閉じて避難所が指定する場所に処理する。

② 汚物対策

排泄物や使用済みのオムツなどの汚物の処理方法を記載する。

規定回数使用した尿取りパッドは黒のビニール袋や消臭袋に入れ密閉し、避難所が指定する場所に処理する。

(8) 必要品の備蓄

被災時に必要な備品はリストに整理し、計画的に備蓄する（多ければ別紙とし添付する）。定期的にリストの見直しを実施する。備蓄品によっては、消費期限があるため、メンテナンス担当者を決め、定期的に買い替えるなどのメンテナンスを実施する。

【飲料・食品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
飲料水	54本	5年前後	各車内	松村一輝
尾西のアルファ米 12種コンプリートBOX	2箱			
保存用ミレービスケット 缶 190g×3缶	1セット			

【医薬品・衛生用品・日用品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
ポリ袋（黒）	2セット		事務所	平田彩加
トイレットペーパー	1セット			
ウェットティッシュ	大3袋			
子供用衣服	上下3着ずつ			
子供用おむつ（BIG）	1袋		事務所	平田彩加
生理用品	1袋			
大人用尿取りパッド	1袋			
救急セット				

【備品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス 担当
携帯ラジオ	1つ	事務所	松村一輝
充電器（ソーラーパネル付き）	1つ		
軍手	3枚		
連絡先ファイル	1部		
現金			
社用携帯	2台		

（9）資金手当て

- ・ 損害保険として、あいおいニッセイ同和損保に加入している。
- ・ 緊急時の資金については、教室運営費として管理者に現金を一定金額預けている。

3.緊急時の対応

（1）BCP発動基準

地震の場合、水害の場合等に分けてBCPを発動する基準を記載する。

【地震による発動基準】

震度6弱以上の地震が発生した場合、もしくは特別警報の発令時

【水害による発動基準】

大雨・洪水警報が警戒レベル3高齢者避難に達したとき

管理者が不在の場合

管理者	代替者①	代替者②
砥嶋徳美	田中真由	田中まなみ

（2）行動基準

発災時の個人の行動基準

利用児童と自分の生命を守る行動を心がける。

(3) 対応体制

対応体制や各班の役割 代替者を含めたメンバーを検討

災害時における対応体制は以下の通りとする。

(1) 情報調達担当(久保田)

・行政や外部機関と連携を取り、正確な情報の入手に努めるとともに適切な指示を仰ぎ、各教室管理者に報告する。

(2) 備蓄・調達班 (松村・平田)

・食料や飲料水などの確保に努めるとともに、炊き出しや飲料水の配布を行う。

(3) 安全指導班 (田中まなみ)

・利用者の安全確認、施設設備の損傷を確認し報告する。施設長の指示があれば利用者の避難誘導を行う。

(4) 救護医療班 (西田)

・負傷者の救出、応急手当及び病院等への搬送を行う。

(5) 地域班 (砥嶋)

・地域住民や近隣の福祉施設と共同した救護活動、ボランティア受入体制の整備や対応を行う。

(3) 対応拠点

緊急時対応体制の拠点となる候補場所

第1 候補場所	第2 候補場所	第3 候補場所
べすとびじょん療育 大東市三住町		

(4) 安否確認

① 利用者の安否確認

【安否確認ルール】

基本的に教室利用時は、室内（ワンフロア）で安否が確認できるため心配ないが、戸外活動時および送迎時の被災については現地到着時に対応方法の打ち合わせを行うこととする。

【医療機関への搬送方法】

被災時は救急車の出動については困難が予想されるため、教室の送迎車にて搬送するが事前に受け入れ先の状態を確認して、対応することが望ましい。

② 職員の安否確認

【施設内】

基本的に教室利用時は、室内（ワンフロア）で安否が確認できるため心配ないが、戸外活動時および送迎時の被災については声掛け、携帯電話、SNS 等を使い対応する。

【自宅等】

携帯電話、SNS 等を使い対応する。

(6) 職員の参集基準

- ・療育時に震度 6 弱以上の地震もしくは特別警報が発令された場合、全職員参集。
- ・療育時間外に震度 6 弱以上の地震もしくは特別警報が発令された場合、出勤している職員で対応する。なお、その場の被災度に応じて全員参集。
- ・休日に震度 6 弱以上の地震もしくは特別警報が発令された場合、通信機器の復旧を待ち、久保田の判断にて参集。

【自動参集基準の対象外】

- ・自宅が被災した場合。
- ・道路が寸断する等の理由により、出勤することで職員に危険が及ぶ場合。

(7) 施設内外での避難場所・避難方法

【施設内】

	第 1 避難場所	第 2 避難場所
避難場所	1 階教室入り口前	酸素ボックス
避難方法	揺れが収まり次第、頭上に注意しながら集合する。その間に出口の確保をしておく。	揺れが収まり次第、大人が酸素ボックスの状態を確認。安全性が確認され次第、頭上に注意しながら玄関に向かいボックス内に入る。

【施設外】

	第 1 避難場所	第 2 避難場所
避難場所	住道北小学校	末広広場
避難方法	揺れが収まり次第、車の安全性を確認し玄関前に幅寄せ駐車する。酸素ボックスから速やかに移動し、車で向かう。	揺れが収まり次第、車の安全性を確認し玄関前に幅寄せ駐車する。酸素ボックスから速やかに移動し、車で向かう。

(8) 重要業務の継続

経過目安	発災当日	発災後1日	発災後2日	発災後3日
職員数	出勤率 133%	出勤率 100%	出勤率 100%	出勤率 100%
	8名	6名	6名	6名
在庫量	100%	95%	90%	85%
ライフライン	停電、断水	停電、断水	停電、断水	断水
重要業務の基準	利用児童を無事に帰宅させる	ほぼ通常、一部減少・休止	ほぼ通常、一部減少・休止	ほぼ通常、一部減少・休止

(9) 職員の管理(ケア)

① 休憩・宿泊場所

休憩場所	宿泊場所
通常と同様に対応	身の安全が確保され、各個人が落ち着いて過ごせる場所

② 勤務シフト

<p>【災害時の勤務シフト原則】</p> <p>震災発生後他府県から勤務する職員が長期間帰宅できず、長期間勤務となる可能性がある、参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むよう災害時の勤務シフトは柔軟に取り扱うこととする。</p>

(10) 復旧対応

① 破損個所の確認

復旧作業が円滑に進むように施設の破損個所確認シートを整備し、別紙として添付。

② 業者連絡先一覧の整備

業者名	連絡先	業務内容
タートルハウス住道店	0120-784-347	各業者への仲介

③ 情報発信(関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応)

公表のタイミング、範囲、内容、方法についてあらかじめ方針を定めて記載する。

災害による被害の状況や復旧の進行度合いなどは、ホームページ等を利用して情報発信する。公表のタイミングや範囲、内容、方法などについては慎重に精査すること。

4. 他施設との連携

(1) 連携体制の構築

① 連携先との協議

他の放課後等デイサービスと経営資源の共有をはかることが地域の福祉向上につながると考えていないため、連携する予定はない。

ビジョントレーニング教室ベすとびじよんとの運営体制の強化を図る。

② 連携協定書の締結

地域との連携に関する協議が整えば、その証として連携協定書を締結し、写しを添付する。

現在のところ、予定はない。

③ 地域のネットワーク等の構築・参画

【連携関係のある施設・法人】

施設・法人名	連絡先	連携内容
相談支援事業所 やすらぎ	072-876-3860	利用児童の連携
大東市障害者生活支援センター	072-803-8536	
株式会社 SACC	072-872-3333	

【連携関係のある医療機関（協力医療機関等）】

医療機関名	連絡先	連携内容
こにし小児科クリニック	072-873-0081	体調不良児童受診

【連携関係のある社協・行政・自治会等】

名称	連絡先	連携内容
大東市立子ども発達支援センター	072-812-7793	利用児童の連携
四条畷市こども未来部 児童発達支援センター	072-877-7373	

(2) 連携対応

① 事前準備

全体ミーティングLINEを活用し、情報を共有している。
ビジョントレーニング教室ベすとびじょんとの強化を図っていく。

②利用者情報の整理

日頃のミーティングで利用者の情報を共有している。
避難先施設でも適切なケアを受けることができるよう、最低限必要な利用者情報を「利用者カード」などに、あらかじめまとめておく。

③共同訓練

連携先と共同で行う訓練概要について記載する。

ビジョントレーニング教室ベすとびじょんと日時を合わせ、年一回の訓練を実施する。

5. 地域との連携

(1) 被災時の職員の派遣

地域の災害福祉支援ネットワークの協議内容等について確認し、災害派遣福祉チームのチーム員としての登録を検討する。
(災害福祉支援ネットワークへの参画や災害派遣福祉チームへの職員登録)

(2) 福祉避難所の運営

① 福祉避難所の指定

福祉避難所として必要な設備を備えてはいないが、利用児童家族等からの要請で利用申し出があれば、その都度対応できるように【受入人数、期間、条件】などを整理しておく。

② 福祉避難所開設の事前準備

物資等については、積極的な開設ではないため教室で用意するのではなく、利用希望者のご家庭毎の対応を求める。一般避難所の利用が困難と予想される利用児童の保護者には、平時に説明をして自助努力にて対応をしていただく。また、開設時の運営は、当社役員が対応にあたることとする。

6.通所系・固有事項

【平時からの対応】

- (1) サービス提供中に被災した場合に備えて、利用者の緊急連絡先を把握すること。
(携帯電話、メール等)
- (2) 学校等と連携し、利用者への安否確認の方法等を確認しておくこと。
- (3) 平時から地域の避難方法や避難所に関する情報に留意し、地域の関係機関（行政、自治会、利用者が他に利用している放課後等サービス事業所等）と良好な関係を築くこと。

【災害が予想される場合の対応】

- (1) 台風や積雪などで甚大な被害が予想される場合などにおいては、サービスの休止や縮小を余儀なくされることを想定し、あらかじめ基準を定めておくとともに、学校等にも情報共有の上、利用者やその家族にも説明する。
- (2) 必要に応じてサービスの前倒し等も検討する。

【災害発生時の対応】

- (1) 利用中に被災した場合は、利用者の安否確認後あらかじめ把握している緊急連絡先を活用し、利用者家族等への安否状況の連絡を行う。
- (2) 利用者の安全確保や家族等への連絡状況を踏まえ、順次利用者の帰宅を支援する。
- (3) 帰宅にあたって、可能であれば利用者家族等の協力を得て行う。
- (4) 帰宅が困難な利用者は、大東市との協議のうえ対応を検討する。

<更新履歴>

更新日	更新内容	更新者
令和6年3月29日	自然災害発生時における業務継続計画作成	

(参考)

記入フォーム例

【様式②】 施設・設備の点検リスト

場所/対象	対応策	備考
建物（柱）		
建物（壁）		
パソコン		
キャビネット		
本棚		
金庫		
浸水による危険性の確認		
外壁にひび割れ、欠損、膨らみはないか		
開口部の防水扉が正常に開閉できるか		
暴風による危険性の確認		
外壁の留め金具に錆や緩みはないか		
屋根材や留め金具にひびや錆はないか		
窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付しているか		
周囲に倒れそうな樹木や飛散しそうな物はないか		

・【様式⑤】 職員の安否確認シート

職員氏名	安否確認	自宅の状況	家族の安否	出勤可否
横田幹雄	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
久保田実希	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
砥嶋徳美	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
平田彩加	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
松村一輝	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
田中真由	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
田中まなみ	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
西田敦人	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
早田光志	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()
吉川由美	無事・死亡 負傷・不明	全壊・半壊 問題無し	無事・死傷有 備考()	可能・不可能 備考()

【様式⑥】 建物・設備の被害点検シート

対象		状況 (いずれかに○)	対応事項/特記事項
建物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	
	電気	通電 / 不通	
	水道	利用可能／利用不可	
	電話	通話可能／通話不可	
	インターネット	利用可能／利用不可	
(フロア単位) 建物・設備	ガラス	破損・飛散／破損なし	
	キャビネット	転倒あり／転倒なし	
	天井	落下あり／被害なし	
	床面	破損あり／被害なし	
	壁面	破損あり／被害なし	
	照明	破損・落下あり／被害なし	
	酸素ボックス	破損あり／被害なし	